

高砂青松

The Rotary Club of Takasago Seisho, Japan

Rotary Club



人類が私たちの仕事

MANKIND IS OUR BUSINESS

2001~2002年度国際ロータリーのテーマ



②10月, 11月のプログラム

10/3	卓話	11/7	卓話
10	休会 (定款第4条第1節第3項による)	14	(R財団委員会担当例会)
17	卓話 岡本会員 (職業奉仕委員会担当)	21	卓話
24	卓話 米山奨学生 安淑憲さん (米山奨学委員会担当例会)	28	卓話
31	国際奉仕委員会担当		

例会記録 (2001.10.3 (金)) 通算1136回

ソング 「国家」「奉仕の理想」「歓迎歌」

来訪ロータリ
アン報告
(三宅)
岩崎 寿太郎 様 (加古川R.C.) 大村 泰司 様 (高砂R.C.)
橋本 猛 様 (高砂R.C.)

出席報告
(岡本)
9月21日 会員数57名 欠席者 3名 出席率 94.74% <修正による>
10月3日 会員数57名 欠席者 7名 出席率 87.82%

誕生祝
植杉 成一郎 会員
鹿間 虹美 会員
尾崎 和夫 会員
橋本 和広 会員
栗原 康高 会員
西野 勝 会員
垣迫 雅一 会員
大橋 卓司 会員



プログラム予定

10月10日 (水)	10月17日 (水)	10月24日 (水)	10月31日 (水)
休会 定款第4条第1節 第3項による	卓話 職業奉仕委員会 担当	卓話 米山奨学生 安淑憲さん (米山奨学委員会担当)	卓話 国際奉仕委員会担当

会長 丸山 滋夫 幹事 鹿間 行雄 クラブ会報委員長 渡辺 弥生
例会日時 毎週水曜日 12:30 例会場 高砂商工会議所会議室 (2F)

事務局 高砂商工会議所内 〒676-0064 高砂市高砂町北本町1104 電話 (0794) 43-0500(代)

結 婚 祝

伊 藤 勝 之 会員
 入 江 瑞 彦 会員
 田 水 敬 雄 会員
 中 谷 利 幸 会員
 増 田 耕 太 郎 会員
 廣 瀬 明 正 会員
 庄 司 武 会員
 曾 根 真 正 会員
 小 西 文 孝 会員
 尾 崎 和 夫 会員
 吉 田 一 富 会員



委 員 会 報 告

◎ クラブ会報委員会 (渡辺委員長)
 ・ クラブ会報の最後のページに「ちょっと一言 委員長談話」を掲載しています。
 各委員会委員長さんには取材のご協力をよろしく申し上げます。
 ・ 会報No.11で金谷会員の卓話の場所に間違って前回の高砂R.C.との合同講演会講師の写真を貼り付けましたことをおわび致します。

ニ コ ニ コ 報 告

橋 本 和 廣・垣 迫 雅 一・大 橋 卓 司・植 杉 成 一 郎
 …… 誕生祝有難うございます。
 鹿 間 虹 美 …… 誕生祝を頂き有難うございます。
 小 西 文 孝 …… 結婚祝ありがとうございます。又、本日職業奉仕卓話をさせていただきます。
 庄 司 武 …… 結婚記念のお祝ありがとうございます。昭和49年10月27日に結婚しています。
 尾 崎 和 夫 …… 結婚お祝有難うございました。又、誕生日のお祝いただきましたが、いつの間にか年の順番が2番になってしまいました。
 増 田 耕 太 郎 …… 結婚祝を頂いてありがとうございます。
 田 水 敬 雄・吉 田 一 富
 …… 結婚記念のお祝ありがとうございます。
 高 井 利 夫 …… 早退致します。
 森 脇 祥 文 …… 早退させていただきます。
 佐 藤 栄 作 …… 早退します。

幹 事 報 告

第 1 1 回 通 算 1 0 8 1 回

1. ガバナー事務所より、学習障害児理解公開講演会開催の案内が届いております。
 11月24日(土) 13時30分～16時 西山記念会館
2. ガバナー事務所より、2002～03年度地区国際青少年交換プログラム参加クラブに対する地区からの援助についての通知が届いております。
3. 小野ロータリークラブより、「第2次青少年緑の協力隊」の参加記録・感想録が届いております。
4. 相生ロータリークラブより、週報が届いております。
5. 次週10月10日(水)は定款第4条第1節により当クラブの例会は休会となっております。
6. 例会変更
 姫路中央R.C.
 10/11(木) → 姫路R.C.との交流例会のため
 12:30～14:00 於: 姫路商工会議所2F大ホール
 10/25(木) → 10/27(土) 親睦日帰り旅行
 加古川平成R.C.
 10/17(水) → 10/18(木) 18:00～
 3クラブ合同例会のため 於: 加古川プラザホテル
 10/31(水) → 休会 定款第4条第1節による
7. 例会終了後、理事・役員会を開催しますので理事・役員の方はお残り下さい。

会 長 の 時 間

会長も3ヶ月が過ぎ4ヶ月目に入りました。3ヶ月が無事に過ぎたのも皆様会員の協力が有ったの事と思います。
 先日神戸で職業奉仕セミナーに出席して21世紀のロータリーと職業奉仕と言うテーマで色々と勉強してきました。
 特に「職業奉仕」の過去・現在・未来への展望と言う講演の中では、職業奉仕の理念の発生・隆盛へのロータリー、そして更に未来へ向かってのロータリークラブのありかた等は参考になりました。又、詳細は小西会員の方から本日の卓話で詳しく説明があると思います。よろしく。

職業奉仕月間にちなんで

職業奉仕委員長 小西 文孝

去る9月29日(土)は、神戸国際会館において国際ロータリー第2680地区の職業奉仕セミナーが開かれました。

フォーラムテーマ：職業奉仕モットーである「He profits most who serves best」(最もよく奉仕するもの、最も多く酬いられる)の使用停止について。

このスローガンは1911年から使われ、このスローガンがロータリーの公的な標語としてさだめられたのは1950年、ミシガン州デトロイトの大会からであります。

そしてこの職業奉仕の理念を象徴するモットー「He profits most who serves best」が6月のR.I.理事会において使用を停止すると決定されました。停止は廃止を意味することで職業奉仕からその実践理念を抜き去る事は職業奉仕そのものを否定するとも受けとめられる。職業奉仕の無いロータリーはロータリーと言えない。

ロータリーの衰退と共にR.I.の会員増強に反し、減少が心配される。この背景のもとにフォーラムが始まりました。

先ず何故、使用停止になったか？ 2001年の規定審議会で採択された主な決議案(定款細則上の規約として7月1日より発行する)のなかに性差別撤廃に関する案件に

- ◎ ロータリアンの配偶者や女性の親族のプログラムを正式に認めることを考慮するよう理事会に要請。
- ◎ クラブが男女両方の会員を持つことを推奨する。
- ◎ すべてのロータリー用語から性に関する表現を削除することを規定審議会から理事会に要請。この文語からHe profits most who serves bestのHeが女性に対する性差別で特定言語の禁止になったのではないかと思います。

フォーラムではさまざまな意見が出ましたが停止に対する反対意見がかなり多かったように思いました。

- ・ 停止は廃止と同じであるとの意見に対して停止=廃止と考えるのは尚早であり同一視は間違っている。
- ・ 性に対する考え方に日本と外国とでは異なりがある。
- ・ モットーの考え方に20世紀と21世紀とでは時代の流れによる変化がある。
- ・ 英語圏での英語の解釈が日本と異なる？ 等々…

くくりで田中毅PGから11月理事会のなかで日本の意気込みを申し入れるとの

ことでした。

今年、3月17、18日地区大会、地区協議会、職業奉仕委員会で1987年作成された「ロータリー職業訓」が再確認されました。厳しい経済情勢の現実のなかで、ロータリーの基本原理についてゆけない部分もあって当然と思いますが、調和と融和、利己、他利の精神を忘れることなく自己研鑽に励んでいただきたいと思います。

私は、この職業訓があり、そして更に4つのテスト
実行はこれに照らしてから

- ① 真実かどうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深めるか
- ④ みんなのためになるかどうか

この4つのテストは職業奉仕の理念であります。

職業訓と4つのテストの基本理念がある限りモットーが使用停止になっても不変であると信じます。

ロータリー職業訓

1915年のサンフランシスコにおける国際大会の決議によって採択された「ロータリー道徳律」は、その後1922年に至り、国際ロータリー細則第16条の規定によって規範的効力を附与されたにも拘わらず、1981年1月1日以降、国際ロータリーとしてはその効力を失うに至った。われわれは、この道徳律の崇高な理念に深く共鳴するが故に、このことを甚だ遺憾に思うものである。

そもそもロータリーは、全世界の全てのロータリアンの共有するところであって、その理想の実態は利己と利他とを調和せしめることを目的とする一つの人生哲学ともいえるべく、ロータリアン個人のあらゆる社会関係において常に適用せらるべき行動哲学である。それは、生きとし生けるものに対する限りなき愛の心に基づくものであり、この心は、ロータリアン相互の切磋琢磨によって培われ、自己研鑽に励むロータリアンの社会的実践によって具体化される。これは、時の古今、洋の東西を問わず、ロータリーの世界において適用せらるべき根本原理である。

われわれは、この原理を再確認すると共に、自己の職業の社会的責任を自覚し、愛の心をもって職業を営むことを誓うものである。

1. すべての職業は、これを天職と心得、自己の職業に誇りをもつと共に、人

